

第4回へそサポ定例会報告

<内容>

*他市町の取り組み視察研修

①かんころの家

②ほほえみ会

(昼休憩:武雄 OLY CAFE)

参加者 17名(サポーター) 職員 4名



西川登:かんころの家
左から一ノ瀬氏・井手氏



「かんころの家」は旧西川登中学校の校舎を武雄市より借り受け、地域課題を解決するための交流拠点として運営・活動されている。高齢者に限らず、子どもから高齢者まで、地域の方々が活用できる「場」「地域交流の場」と捉え、《かんころ市場・助け合いかんころ号・週2回の通いの場・移動スーパー・よろず承り処》という5つの事業を中心におき活動されている。

買い物弱者・交通弱者を多く抱える西川登地区の課題解決に向け、武雄市の2層協議体として取り組み、『若い世代の招聘はもちろん、高齢者にとって住みやすい町として、高齢者の受け入れも進めていけば人口は増える』ということで、町の活性化・存続も視野に入れ日々活動されている。この取り組みは全国各地で注目され、県内外を問わず視察の希望も多く、時間が許す限り受け入れ対応されている。



かんころ号
西川登と東川登
の二地区で名前
を変え運用中!



火曜と木曜の通いの場は、毎回20名程利用され、いろいろな活動を楽しまれている。利用されることが認知面の低下の進行防止にもつながっているとの井手施設長の言葉は印象的であった。閉じこもらず、定期的に通いの場へ通うこと・交流することの効果を実感されていた。



かんころの家にて記念撮影

①かんころの家

②武内町・ほほえみ会

会創設時より、日常生活の困りごとを支援に力を入れ、お助け隊として生活支援に取り組まれている。アンケート等で地域の課題を把握し、《地域資源は自然にはできない》《できること探し》からスタートし、支援内容を決め、お助け隊会員で、地域の方の困りごとの支援が行われている。武内町の地域の特性が支援内容に表れ、除草作業・木の伐採・網戸の張替え・粗大ごみのゴミ出しと、内容はへそサポとは異なっている。

取り組む姿勢他共通する部分も多々あるが、“生活支援の内容というのは地域性が反映し、多岐にわたるものだ”ということをサポートのみなさんも実感されたのではと思う。男性会員が多く、半数以上をしめる割合であるが、支援内容を実施するには男性がいなければ支援できない状況もある。後継者不足というのは、いずれの地区でも課題としてあがっており、現役サポーターが無理をせず対応できるよう、またつくりあげた支援の仕組みが継続できるよう、避けられない大きな課題である。



武内町:ほほえみ会
左から黒川氏・古川氏



ほほえみ館



移動中の車内
景色と会話を楽しみ
あっという間に
着きました!(*^^*)
みなさんお元気!です。

昼食のランチ!
みんなで美味しく
いただきました!

